

事務連絡
平成26年1月16日

各正会員
事務局長様

公益社団法人全国産業廃棄物連合会
専務理事 森谷 賢



産業廃棄物処理業の景況動向調査（2013年7-9月期）報告書 の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産廃連発第139号（平成25年10月2日付け）にて、ご協力をお願いしたところですが、ご多用の中、ご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

つきましては、本調査の報告書が別添の通りまとまりましたので、ご送付いたします。

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2013 年 7-9 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲11 となり、2009 年の調査開始以来、過去最高を更新した。

- 2013 年 7-9 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 20%で前回調査（2013 年 4-6 月期 28%）より 8 ポイント改善している。また、「好転」とした企業は 9%で前回調査（6%）より 3 ポイント改善している。ともに前回調査より改善され、景況判断 DI は▲11 となり、前回調査（▲22）より 11 ポイント改善している。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲7 で、2013 年 4-6 月期から 3 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲7 で、2013 年 4-6 月期から 2 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲8 で、2013 年 4-6 月期と同水準
 - ・営業利益 DI は▲13 で、2013 年 4-6 月期から 2 ポイント改善
 - ・資金繰り DI は▲4 で、2013 年 4-6 月期から 1 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 7 で、2013 年 4-6 月期から 3 ポイント改善
 - ・設備投資 DI は▲2 で、2013 年 4-6 月期から 5 ポイント改善
 - ・従業員数 DI は 3 で、2013 年 4-6 月期から 3 ポイント改善
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲10 となり、回復を持続する見込みとなっている。
 - 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 6.3%減となった。
 - 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 0.5%増となった。
 - 経常利益率については、平均値が 4.92%（前回調査 5.19%）となった。回答割合は「5%未満」39.4%、「5-10%未満」17.8%、「10%以上」13.5%となった。
 - 経営上の問題点については、1 位「同業者相互の価格競争の激化」、2 位「需要の停滞」、3 位「人件費以外の費用増加」、4 位「顧客先からの値下げ要請」となった。前回調査と比べて、「買取屋の攻勢」（前回 3.4%→今回 5.1%）は上昇している。

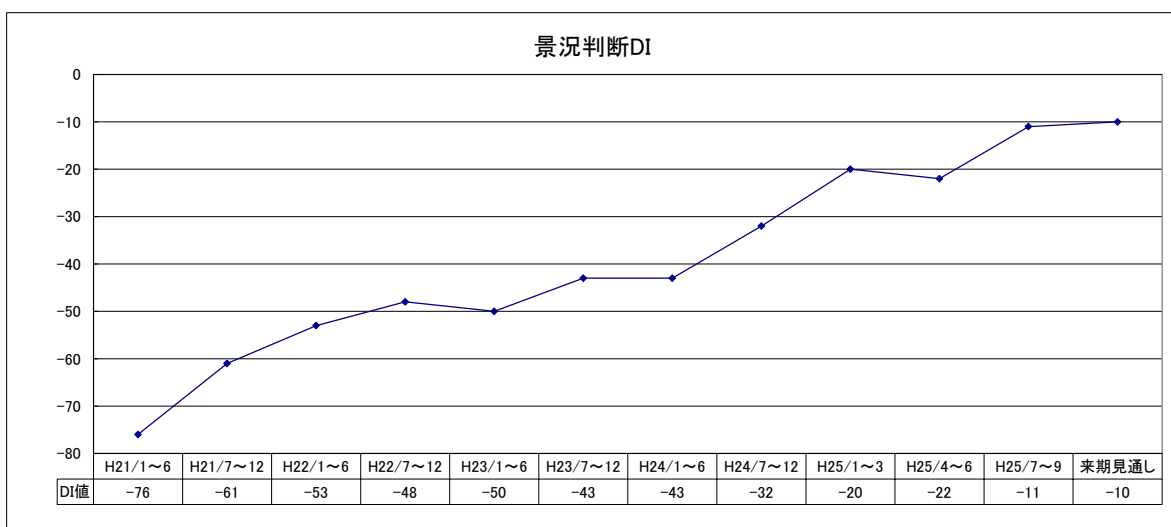
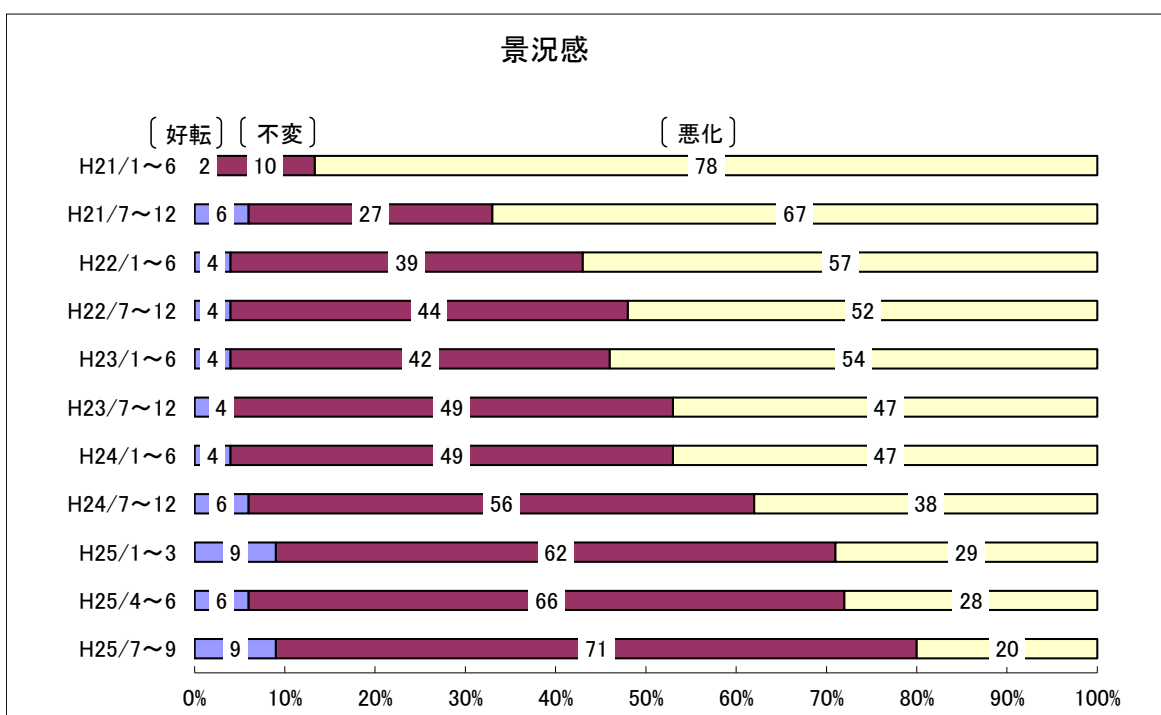
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

1. 景況感 DI (「好転」・「増加」－「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 全体の景況判断 DI は、今回▲11 となり、前回と比べて 11 ポイント改善した。2009 年の調査開始以来、過去最高を更新した。
また、見通しは▲10 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI でみると、「中部」を除く全地域が前回と比べて改善し、「北海道・東北」、「関東」、「信越・北陸」、「近畿」、「中国」、「四国」の 6 地域が過去最高となった。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI の見通しをみると、「北海道・東北」が最も好調となっている。(3 ページ参照)



地域別景況判断D I

H25年4-6月期

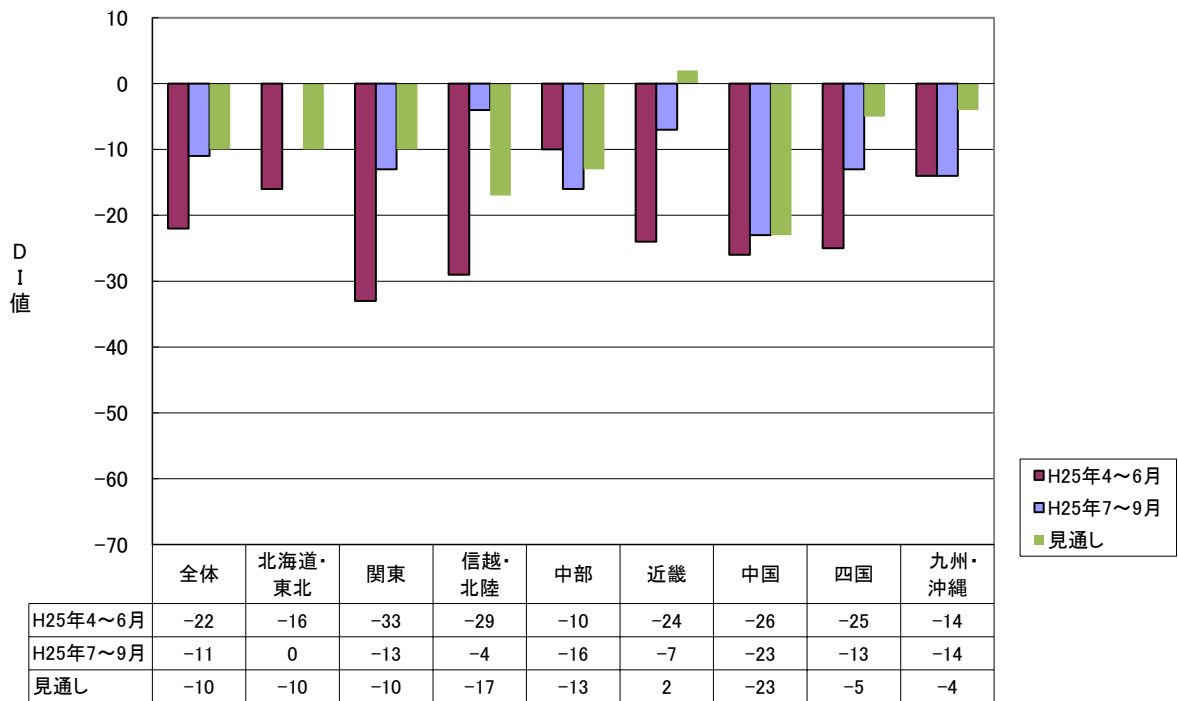
中部
九州・沖縄
北海道・東北
近畿
四国
中国
信越・北陸
関東

H25年7-9月期

北海道・東北
信越・北陸
近畿
関東
四国
九州・沖縄
中部
中国

H25年10-12月期見通し

近畿
九州・沖縄
四国
関東
北海道・東北
中部
信越・北陸
中国



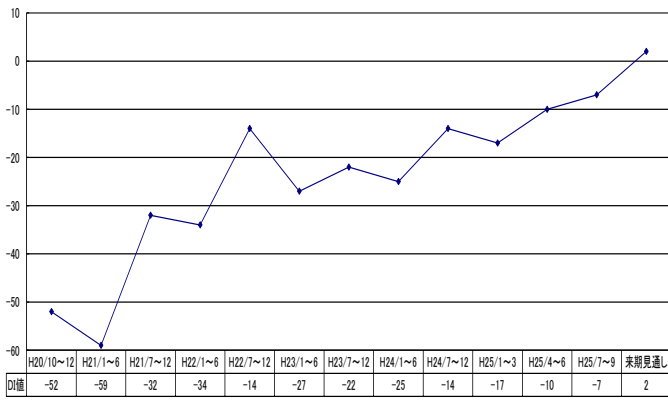
(2) 売上高 DI、処理量 DI、契約単価 DI、営業利益 DI、資金繰り DI、借入難易度 DI、設備投資 DI、従業員数 DI

- 前回と比べると、契約単価 DI、資金繰り DI を除く全ての指標が改善した。
- 見通しは、売上高 DI、処理量 DI、設備投資 DI の指標のみ改善している。

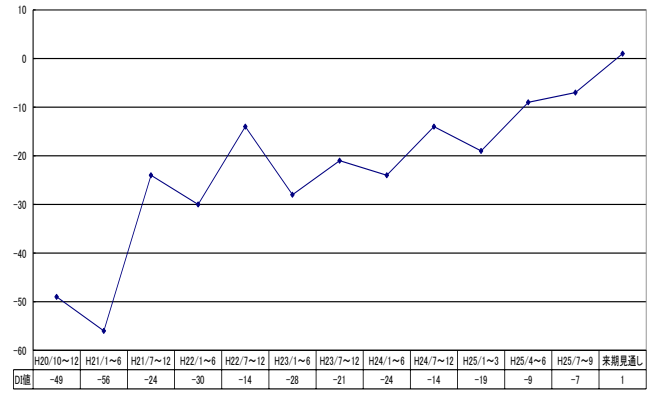
以下詳細（5 ページ参照）

- ・売上高 DI は、今回▲7 となり、前回と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは 2 となり、9 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は、今回▲7 となり、前回と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは 1 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・契約単価 DI は、今回▲8 となり、前回と同水準となった。
見通しは▲9 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は、今回▲13 となり、前回と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは▲9 となり、4 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は、今回▲4 となり、前回と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは▲4 となり、同水準で推移する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は、今回 7 となり、前回と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは 3 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は、今回▲2 となり、前回と比べて 5 ポイント改善した。
見通しは▲4 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は、今回 3 となり、前回と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは 3 となり、同水準で推移する見込みとなっている。

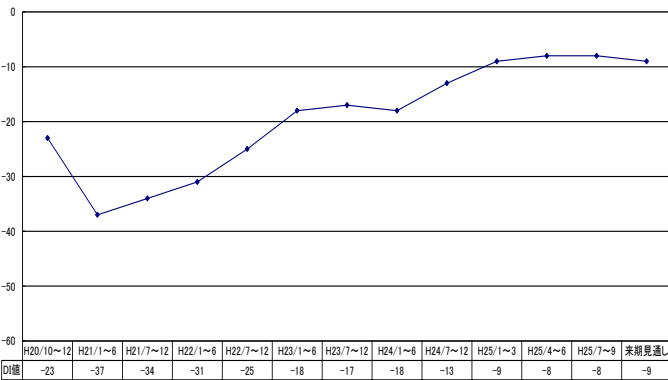
売上高DI



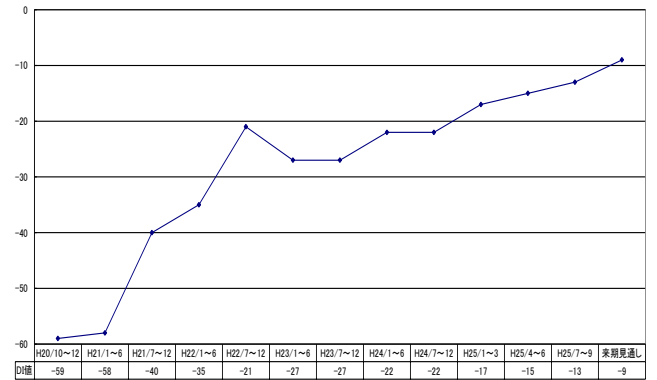
処理量DI



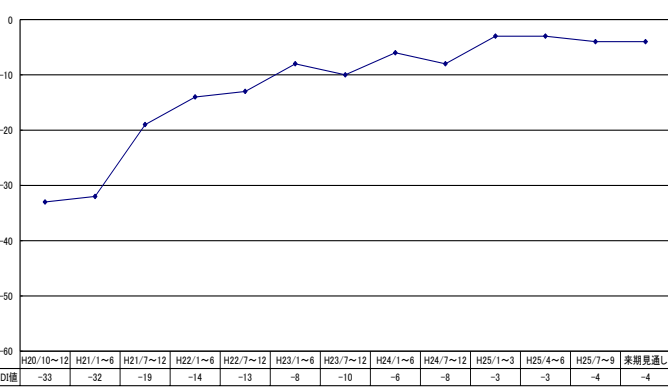
契約単価DI



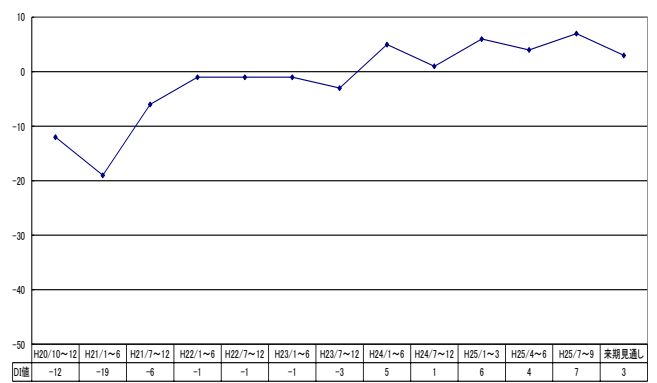
営業利益DI



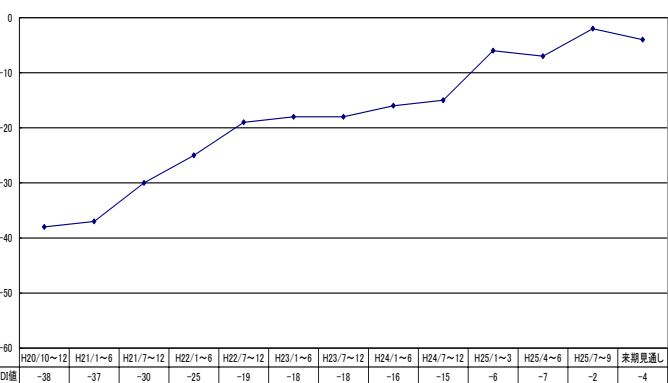
資金繰りDI



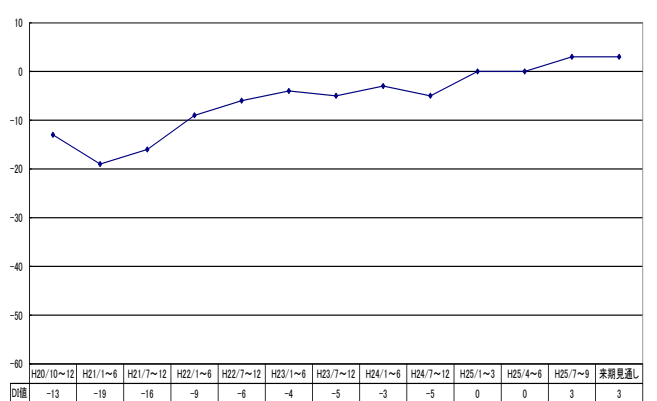
借入難易度DI



設備投資DI

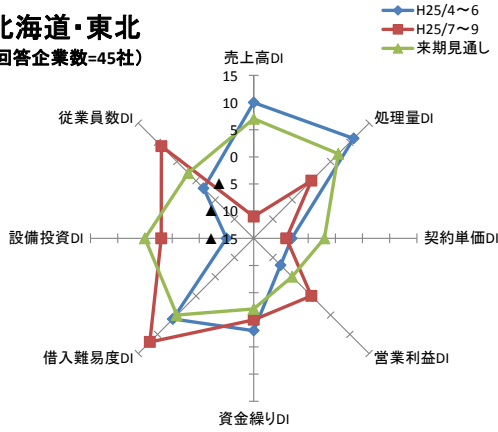


従業員数DI

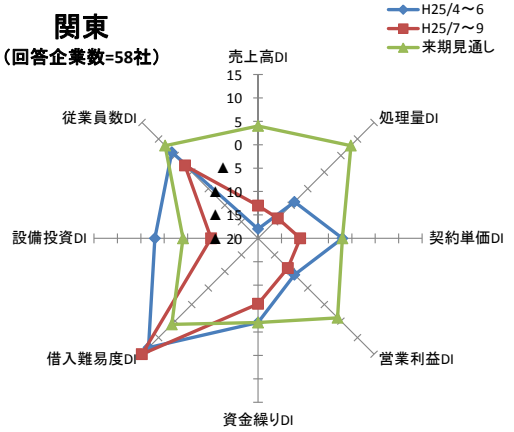


【地域別レーダーチャート】

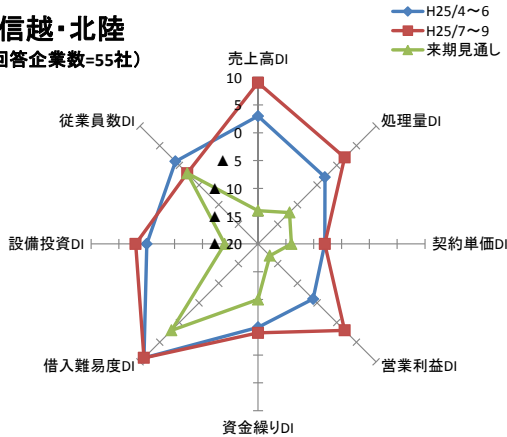
北海道・東北
(回答企業数=45社)



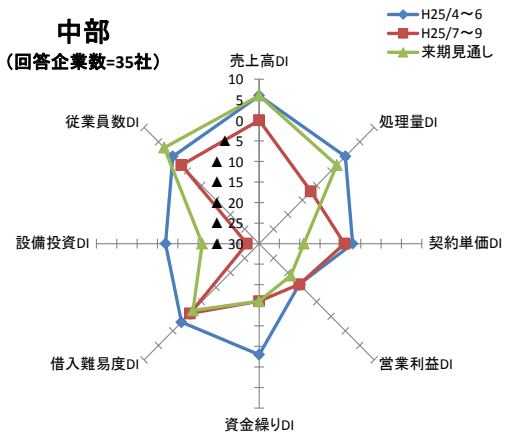
関東
(回答企業数=58社)



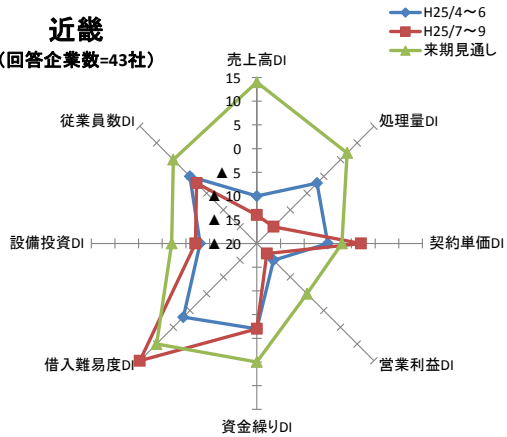
信越・北陸
(回答企業数=55社)



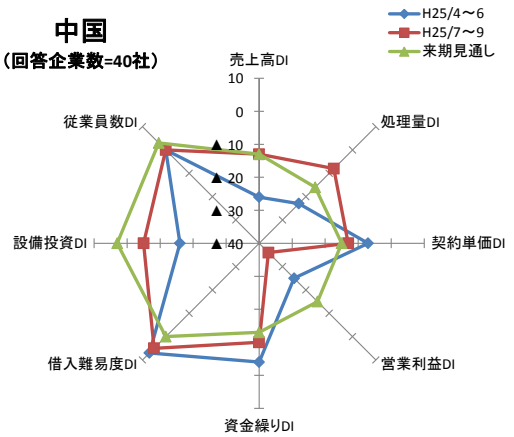
中部
(回答企業数=35社)



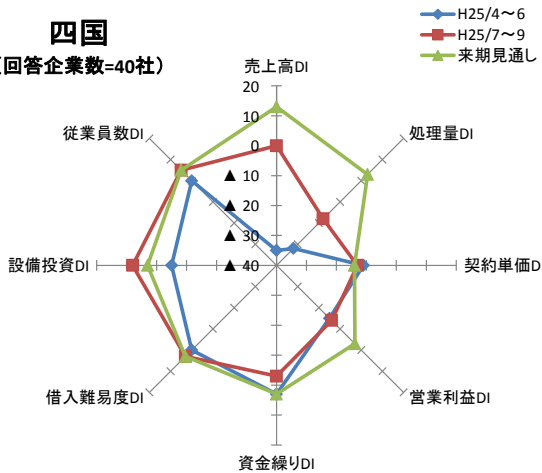
近畿
(回答企業数=43社)



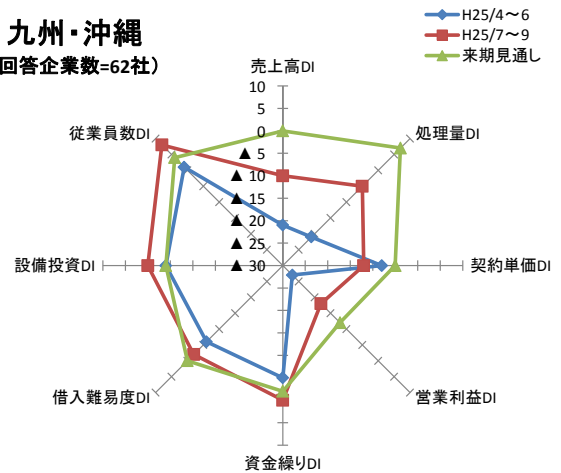
中国
(回答企業数=40社)



四国
(回答企業数=40社)



九州・沖縄
(回答企業数=62社)



3. 売上高の動向

○ 前年同期比（3ヶ月平均）では、6.3%減となった。

有効回答数：221社

単位：千円

	H24年7月	H24年8月	H24年9月	平均
全体	9,281,838	9,032,091	9,809,370	9,374,433
	H25年7月	H25年8月	H25年9月	平均
全体	9,238,024	8,373,780	8,734,689	8,782,164
前年比	▲0.5%	▲7.3%	▲11.0%	▲6.3%

4. 処理量の動向

○ 前年同期比（3ヶ月平均）では、0.5%増となった。

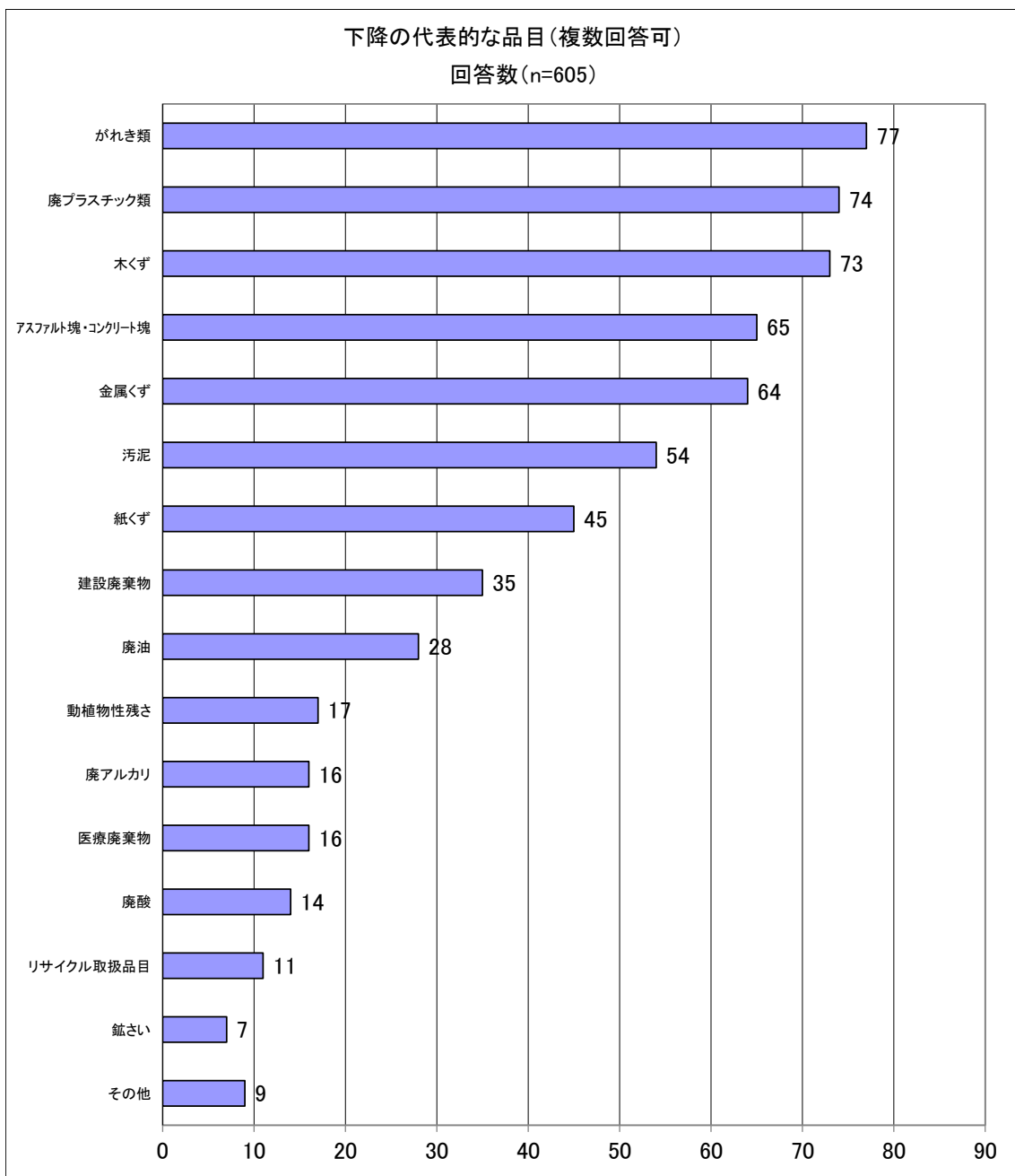
有効回答数：213社

単位：トン

	H24年7月	H24年8月	H24年9月	平均
全体	635,761	598,830	646,730	627,107
	H25年7月	H25年8月	H25年9月	平均
全体	687,079	580,637	623,972	630,463
前年比	8.1%	▲3.0%	▲3.6%	0.5%

5. 代表的な値下げ品目（複数回答可）

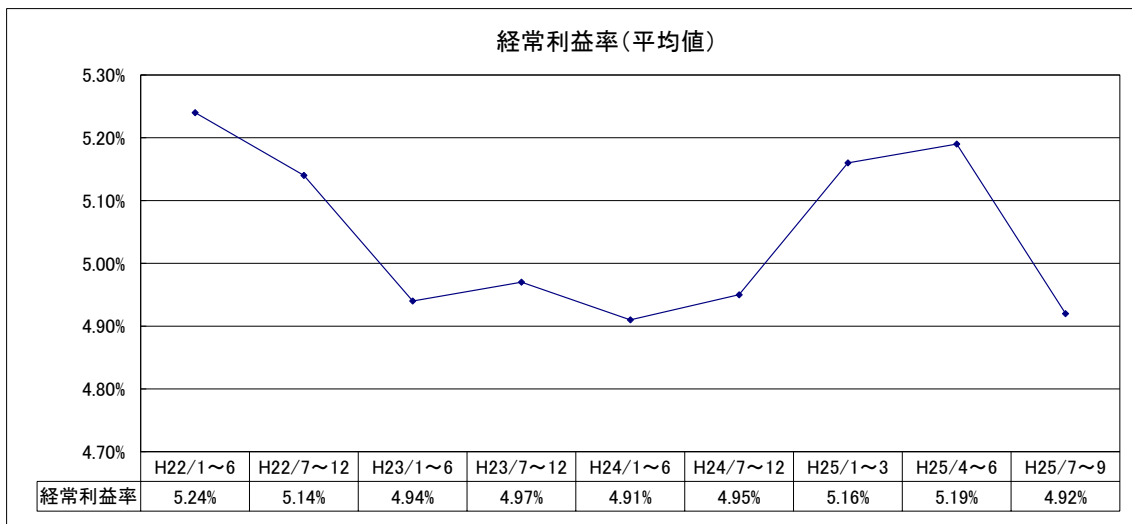
- 代表的な値下げ品目としては、1位「がれき類」、2位「廃プラスチック類」、3位「木くず」、4位「アスファルト塊・コンクリート塊」、5位「金属くず」等となった。上位5位合わせて、6割と高い割合になっている。
- 前回調査と比べて、「アスファルト塊・コンクリート塊」（前回6位→今回4位）は上昇している。



6. 経常利益率（経常利益の対売上高比率）

- 経常利益率の平均値（注1）は4.92%となった。4期振りに悪化した。
- 経常利益率をみると、「5%未満」との回答割合が39.4%、「5-10%未満」が17.8%、「10%以上」13.5%となった（前回調査「5%未満」37.3%、「5-10%未満」17.6%、「10%以上」14.9%）。

平均値 ^(注1)	中央値 ^(注2)	最頻値 ^(注3)
4.92%	4-5%	1%未満



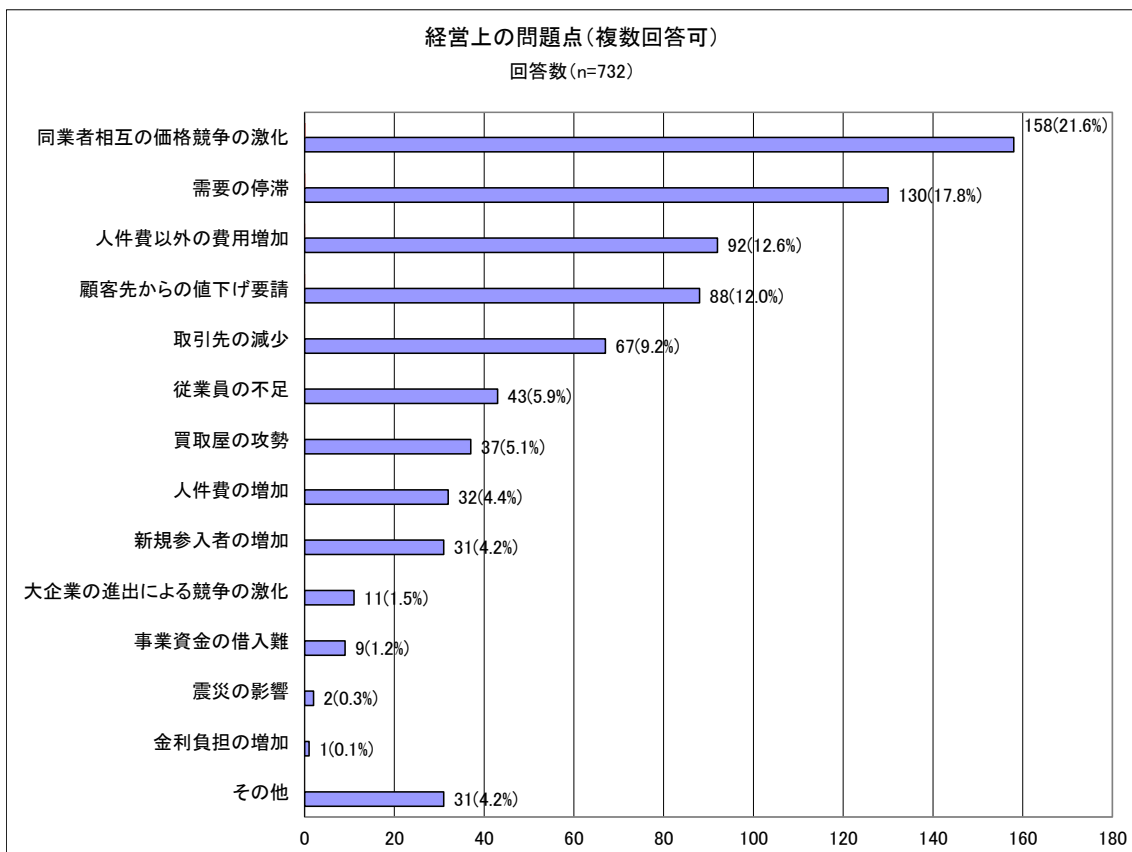
(注1) 平均値は、各選択肢の「代表値（各選択肢の幅の中間値）」×回答人数」を足した値を回答人数（把握なしを除く）の合計で割って算出する。なお、1%未満の代表値は0.5%、10%以上の代表値は10.5%とする。

(注2) 中央値は、回答（把握なしを除く）を昇順あるいは降順などの順番に並べて、中央に位置する値。

(注3) 最頻値は、最も回答人数（把握なしを除く）が多い値。

7. 経営上の問題点（複数回答可）

- 経営上の問題点としては、1位の「同業者相互の価格競争の激化」、2位の「需要の停滞」、3位の「人件費以外の費用増加」、4位の「顧客先からの値下げ要請」となった。
- 前回調査と比べて、「買取屋の攻勢」（前回 3.4%→今回 5.1%）は上昇している。
- 「その他」として、ガソリン価格の上昇や電気料金の値上げがコスト上昇となり、収益環境が悪化しているとする意見が多かった。



【その他の代表的な意見】

- ・ 電気代、燃料代の値上げ
- ・ 設備の老朽化
- ・ 公共事業の減少
- ・ 単価等の取引条件の厳しさ
- ・ 先行投資による資金繰りの悪化
- ・ 新規顧客の開拓
- ・ 消費税対応
- ・ 処理施設廃止のため、持込み先がない

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、2008年10月-12月期の本調査において回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

「景況動向調査（2008年10月-12月期）」で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

平成25年10月2日～10月31日

(3) 調査方法

郵送によるアンケート

(4) 回答数・回答率

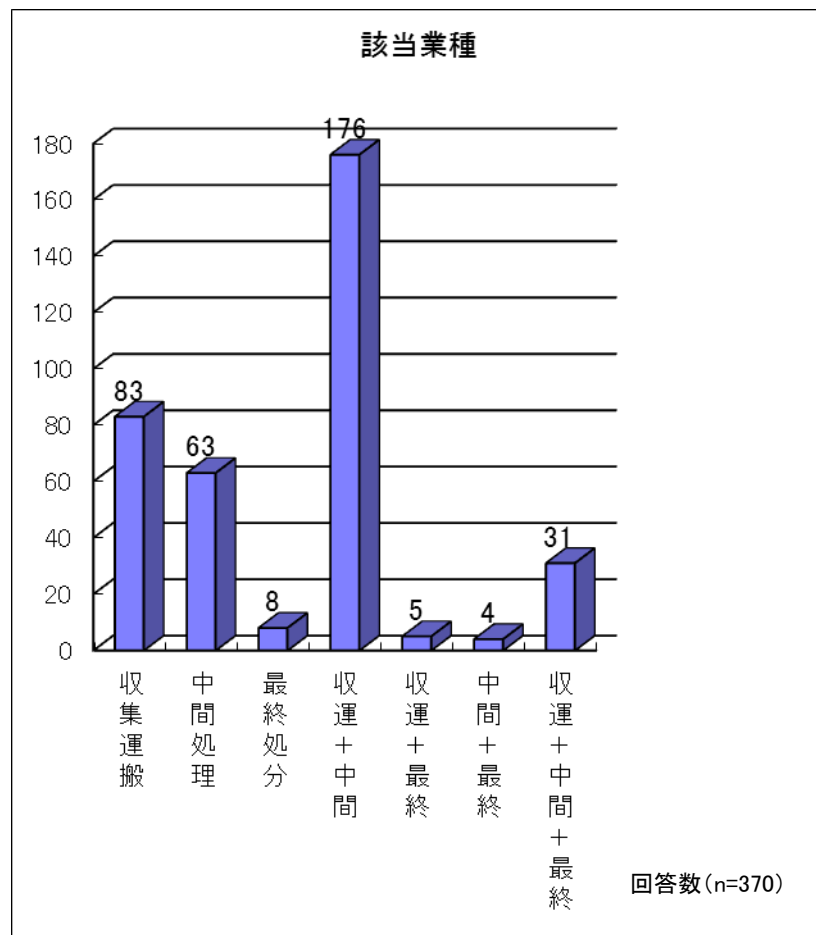
調査依頼企業数	1,113社
回答企業数	378社
回答率	33.4%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

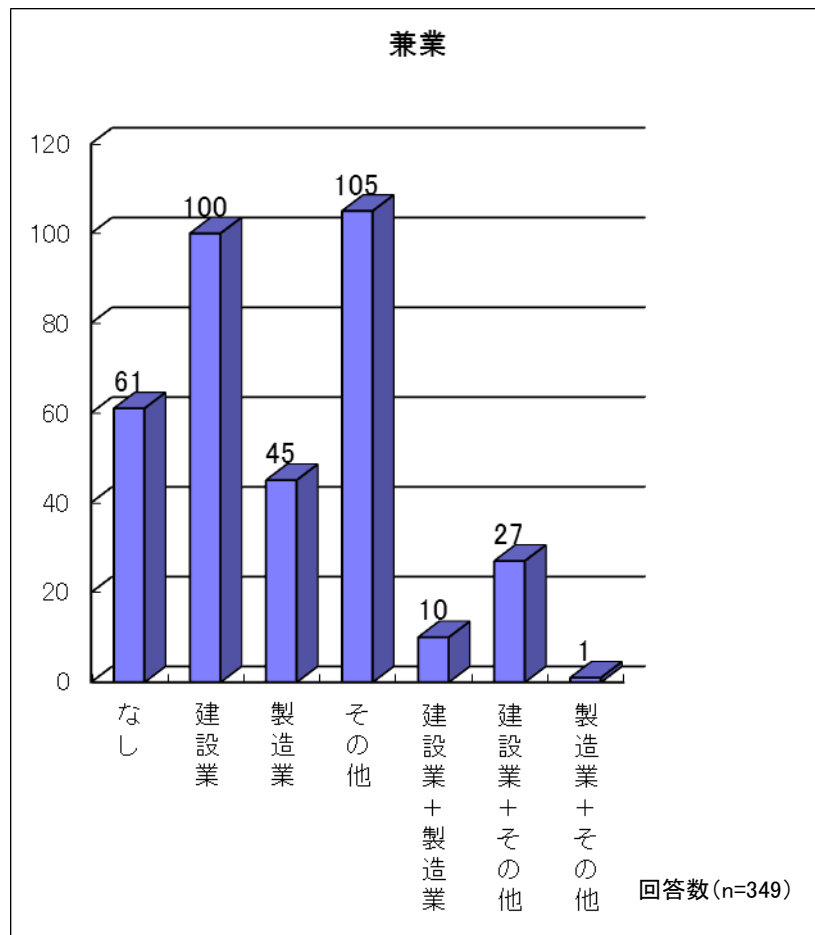
地域	企業数	構成比
北海道・東北	45	11.9%
関東	58	15.3%
信越・北陸	55	14.6%
中部	35	9.3%
近畿	43	11.4%
中国	40	10.6%
四国	40	10.6%
九州・沖縄	62	16.4%
無回答	0	-
合計	378	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	83	22.4%
中間処理	63	17.0%
最終処分	8	2.2%
収運+中間	176	47.6%
収運+最終	5	1.4%
中間+最終	4	1.1%
収運+中間+最終	31	8.4%
無回答	8	-
合計	378	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	61	17.5%
建設業	100	28.7%
製造業	45	12.9%
その他	105	30.1%
建設業+製造業	10	2.9%
建設業+その他	27	7.7%
製造業+その他	1	0.3%
無回答	29	-
合計	378	100.0%

○参考資料1(他業界との比較)

平成25年4月～平成25年9月(半期)の実績と来期の見通しについて、「建設業」及び「トラック運送業」の景況調査結果と本調査結果を比較。

※DIとは、「好転」・「増加」等とする企業割合から、「悪い」・「減少」等とする企業割合を差し引いた値。

〔景況感DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業	▲22	▲11	▲10
建設業(地元建設業界の景気)	▲8	4	0
トラック運送業	▲31	▲11	▲10

〔受注DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業(処理量)	▲9	▲7	1
建設業	▲3	0	▲7

〔資金繰りDI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業	▲3	▲4	▲4
建設業	▲8	▲5	▲14

〔借入難易度DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業	4	7	3
建設業(銀行等貸出傾向)	2	5	0

〔従業員数DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業	0	3	3
建設業(建設労働者の確保)	▲34	▲41	▲45
トラック運送業(人手の過不足)	24	42	48

〔収益DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業(営業利益)	▲15	▲13	▲9
建設業	▲17	▲12	▲19
トラック運送業(経常損益)	▲22	▲16	▲15

出典:平成25年度第2回建設業景況調査【北海道建設業信用保証株式会社・東日本建設業保証株式会社・西日本建設業保証株式会社】のデータに基づき連合会がDI値を算出。DI値の算出方法は、BSI値を2倍にして算出する。

出典:第83回のトラック運送業界の景況感(速報)【社団法人全日本トラック協会】のデータに基づき連合会がDI値を算出。DI値の算出方法は、「大幅増加」・「やや増加」等とする企業割合から、「大幅減少」・「やや減少」とする企業割合を差し引く。

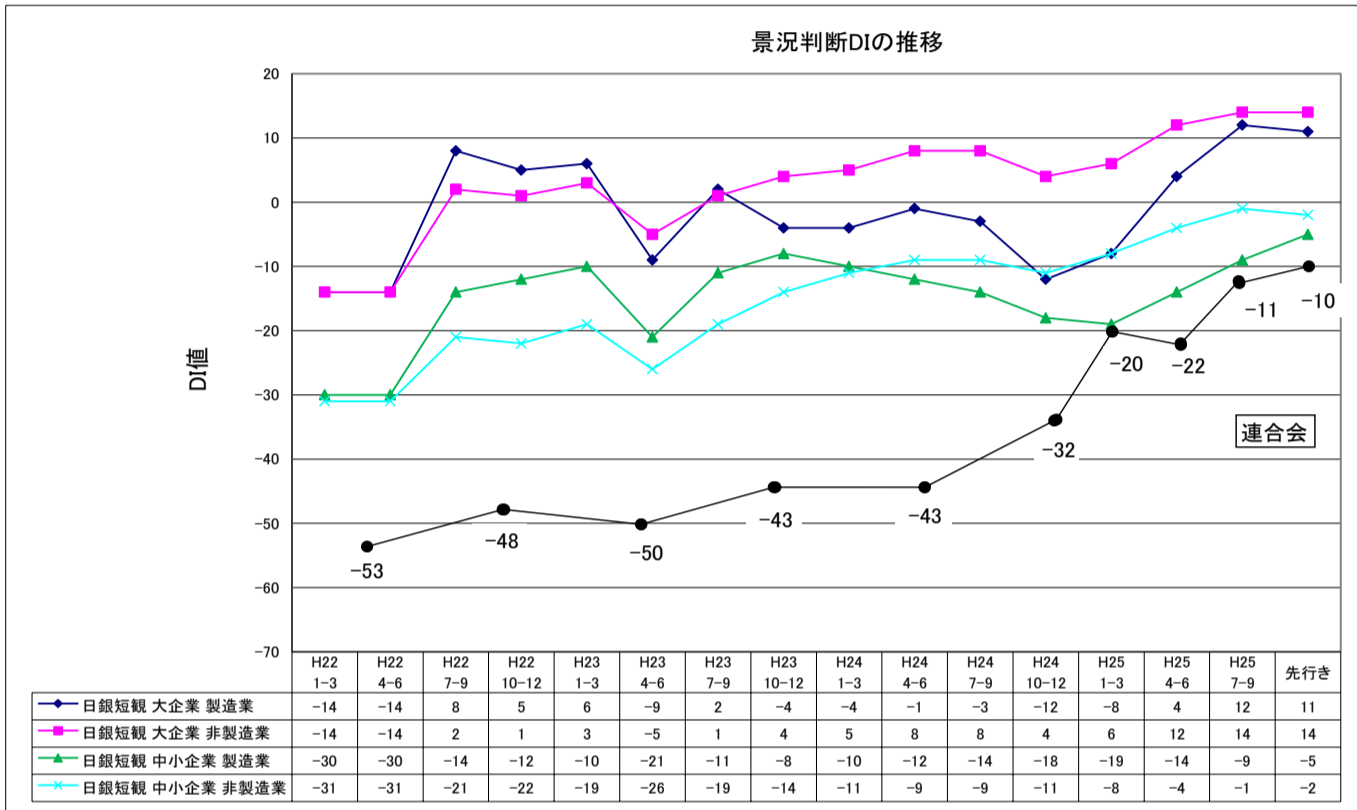
○参考資料2(日銀短観との比較)

平成25年4月～平成25年9月(半期)の実績と先行きについて、日本銀行が公表する「短観(全国企業短期経済観測調査)」と本調査結果を比較。

※DIとは、「好転」・「増加」等とする企業割合から、「悪い」・「減少」等とする企業割合を差し引いた値。

〔景況判断DI〕

			前期	今期	先行き
			H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業			▲22	▲11	▲10
日銀短観	全規模	全産業	▲2	2	3
	大企業	製造業	4	12	11
	大企業	非製造業	12	14	14
	中小企業	製造業	▲14	▲9	▲5
	中小企業	非製造業	▲4	▲1	▲2



〔資金繰りDI〕

		前期	今期
		H25/4-6	H25/7-9
産業廃棄物処理業		▲3	▲4
日銀短観	全規模	6	7
	大企業	16	17
	中小企業	▲3	▲2

〔借入難易度DI〕

		前期	今期
		H25/4-6	H25/7-9
産業廃棄物処理業		4	7
日銀短観	全規模(貸出態度判断DI)	11	12
	大企業(貸出態度判断DI)	18	19
	中小企業(貸出態度判断DI)	6	7

〔設備投資DI〕

		前期	今期	先行き
		H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業		▲7	▲2	▲4
日銀短観	全規模(生産・営業用設備判断DI)	5	3	1
	大企業(生産・営業用設備判断DI)	5	4	2
	中小企業(生産・営業用設備判断DI)	5	3	1

〔従業員数DI〕

		前期	今期	先行き
		H25/4-6	H25/7-9	H25/10-12
産業廃棄物処理業		0	3	3
日銀短観	全規模(雇用人員判断DI)	▲1	▲5	▲8
	大企業(雇用人員判断DI)	2	▲1	▲3
	中小企業(雇用人員判断DI)	▲1	▲7	▲9